

学校法人 仙台育英学園 秀光中学校

二〇二三年度 入学者選考試験問題 (教科型)

# 国語

(第一問～第四問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- ・この問題冊子は、十四ページあります。
- ・答えはすべて問題の指示にしたがって、解答用紙に記入  
しなさい。

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の——線の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 貴重な経験をする。
- ② 電車内は混雑している。
- ③ 期待に込める。

問二 次の——線のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① この先の道はキケンが多い。
- ② 新聞のホウドウで事件を知る。
- ③ 近所の神社にサンパイする。

問三 次の——線は同音異義語です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① 芸術にふれてカンセイをみがく。
- ② 作品をカンセイさせて提出する。

問四 次の——線は同訓異字です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① 紙がヤブれる。
- ② 試合にヤブれる。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ね、千鶴は部活どうするの」

しほりんからそう聞かれたときも、だから千鶴は少し……いや、だいぶ無理をして、告白した。

「できれば……だけど、わたし、野球部のマネージャーとか、やってみたいなって」

「え」  
「甲子園とか観て、憧れてたの。マネージャー」

① 言ったとたんに、ほおがほてった。マネージャーなんて似あわないって笑われる？

しかし、返ってきたのは意外な声だった。

「ほんと？ あたしもマネージャー、憧れてたんだ」

「え、しほりんも？」

「うん、ずっとやってみたかった。ボール磨いたり、試合中に祈ったり、ベンチ入りできない選手を励ましたり」

「ね、やってみたいよね。やろうよ、ふたりで、マネージャー」

「そうだね。ひとりじゃ勇気が出なかったけど、千鶴が一緒なら」

「わたしも、しほりんが一緒なら」

ふたりはすっかり舞いあがり、AとAをとりあってマネージャーになることを誓いあった。そして、その日の放課後に早速、野球部の偵察にくりだした。

(中略)

ふたりの予想に反して、グラウンドの空気はなごやかだった。先輩にしごかれてる後輩もいないし、「走れ!」「もう一本!」なんて怒鳴り声もしない。先輩も後輩も半分ふざけながら練習を楽しんでいる様子。そのまったりとした輪のなかに、男もののジャージをだっぴりとはおった三人の女子もまじっていた。

「あれ、マネージャー……かな」

「ん。先輩……だよね」

彼女たちの姿を追うにつれ、千鶴としほりんは伏し目がちになった。

長い髪をなびかせた三人はとてもかわいくて、活発そうで、スタイルもよくて、自信満々で、中学生じゃないみたい注2あかに垢ぬけていた。マネージャー、と呼ばれるために生まれてきたような女の子。部員たちから代わるがわるにちょっかいを出されては、キャアキャアと黄色い声をあげている。

② 千鶴は胸のときめきが急速にしぼんでいくのを感じた。バックネットごしに広がる緑色があった世界が、あれよあれよと自分から遠のいていくような。

ぴたりと口を閉ざしたしほりんの瞳にも、千鶴と同様のこわばりがある。

「どうしよっか」

「帰ろっか」

以降、ふたりのあいだでマネージャーの話が再燃すること  
はなかった。

(中略)

陸上部は練習がきびしそう。水泳部は水着がはずかしい。考えるほどに、千鶴は自分にぴたっとくる部活なんてどこにもない気がしてきた。運動自体、もともとあまり得意ではないのだ。

それでも千鶴が体育系の部活にこだわったのは、「変わりたい」の一心からだ。ここで文化系の部活を選んでしまったら、この先もずっと、自分はこれまでとおなじレベルの上を走りつづけることになる。

新しいわたし。今までとはちがうわたし。部活は、そんな自分に生まれ変わる最大のチャンスなのだ。

そう思いながらも、足をふみだす方向が定まらずにいたある日の放課後、吹奏楽部の見学につきあってほしいと、千鶴はしほりんにたのまれた。

「ひとりじゃ行きづらくて。お願い」

「もちろん」

北見二中の音楽室は、本校舎からはなれた別棟べつどうの北校舎にある。渡りろうかの窓ごしに中庭を見おろしながら足を運ぶと、本校舎の喧噪けんそうや床の震動しんどうが次第に遠のいて、しんとした静けさに包まれていく。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

音楽室の戸を開けた瞬間、その静寂をゆさぶる音がした。足もとからはいあがつてくる低音。それがクラリネットの音色であることに、千鶴は室内を見まわしてから気がついた。クラリネットだけじゃない。机を前方に積みあげてスペースを空けた室内には、想像以上に多くの部員がいた。トランペット。フルート。打楽器。それぞれのパートごとに練習している。教室のあちこちから響く多彩な音。その音と音とが絡みあい、もつれあい、不協和ながらも重層的な音のかたまりを生んでいる。

「見学？」

教室の隅で新入部員の指導をしていた顧問の先生が、千鶴としほりに気がついた。

ベートーヴェンみたいな髪の毛の男の先生。でも、顔はあそこまでやばくない。

「あ、はい」

「よろしくお願ひします」

あわてて頭をさげたふたりに、「入っておいで」と手招きする。ふたりが足を踏みいれるなり、先生はぱんと両手を打って部員たちに呼びかけた。

「一年生が来たから、ちょっと聴かしてやって」  
「たちまち、パートごとの小さなかたまりがほぐれ、教室の

中心に全員が集合した。先生の指揮棒にたぐられて、その大きなかたまりから蒸気のようにメロディが立ちのぼる。最初はふんわりと。ひとつ、またひとつと音が増え、メロディが

膨らむ。膨らむ。膨らむ。ひとりひとりの奏でる楽器が、重なることでその音色を深め、引きたて、美しいハーモニーを育てていく。

砂浜の波が引いたあとで足もとの砂がすつと動くみたいに、千鶴の心は音のほうへと引きよせられた。曲が終わったときにはすっかり感動していた。

なんの曲かもわからない。上手な感想だってひと言も言えなかったけれど、ベートーヴェン先生は「またおいで」と笑ってくれた。

「なんか、すごかったよね」

「うん。すごいよね、吹奏楽部。っていうか、中学生ってすごい！」

「ほんと、レベル高かった。小学校の鼓笛隊なんて目じゃないね」

「目じゃない、目じゃない」

「うちらも練習したらあんなふうになれるのかな」

帰り道、野球部のときとは打ってかわって、ふたりのテンションは高かった。千鶴の感動がしほりに、しほりの興奮が千鶴に乗りうつり、ふたりして無制限に高まっていくみたい。

「決めた。あたし、吹奏楽部に入る。千鶴も一緒にやろうよ」

しほりにさそわれるまでもなく、千鶴の気持ちも吹奏楽

部へ傾<sup>なな</sup>いていた。

放課後の音楽室にいる自分を、千鶴はたやすく想像できた。すぐに上達するほど器用じゃなくても、まじめに練習を積んで、着実に成長していく自分。仲間や先輩たちともそれなりにうまくやっていく。ありありとイメージできる。できすぎる。

「あのね、わたし……中学生になったら、変わりたいって思ってたんだ」

千鶴は初めてしほりに打ちあけた。

「**B** 自分になりたくて。吹奏楽部は、すごくいいと思うし、すごくやってみたい。でも、それじゃ、今までのわたしと一緒に気もして……」

うまく言えない。じれ<sup>だ</sup>ったく黙<sup>だま</sup>りこむ千鶴の横顔を、しほりんがじっと見つめている。千鶴が本気するとき、しほりんはいつもおなじくらしいの本気さで何かを返そうとしてくれる。ちょうどいい言葉が見つからなくても、見つけだすまであきらめない。

けれど、この日は早かった。

「うん」

胸もとのスカーフをのぞきこむように、しほりんはこっくりうなずいて言ったのだ。

「わかるよ。千鶴の気持ち」

「え」

「あたしも、そんなふうに思うことあるし」

「しほりんも？」

「うん。でも、それでもあたし、千鶴は千鶴らしいことをしたほうがいいと思う」

「そうかな」

「わざと自分らしくないことをするより、千鶴は千鶴らしいことをして、今までの千鶴以上にそれをがんばって、その先に、今までとちがう千鶴がいるんじゃないのかな」

千鶴は千鶴らしいことをして、今まで以上にそれをがんばって、その先に、今までとちがう千鶴がいる――。

千鶴はその言葉を吸いこんだ。とたん、道のむこうに広がる夕焼け空が朝焼けみたいに光り方を変えた。

「うん。そうかも。そうならいいな」

⑤ すうっと肩<sup>かた</sup>から力がぬけた。

「ありがとう、しほりん。わたし、決めた。明日<sup>あした</sup>、仮入部届けもって、ヴェンに会いに行くよ」

「あたしもヴェンに会いに行く」

「わたしのヴェンに？」

「あたしのヴェンだよ」

顔を見合わせたふたりの笑いがはじける。勢いあまって千鶴が駆け<sup>か</sup>けだすと、しほりんが「待てーっ」と追ってきた。

⑥ だいぶ足になじんできた通学路に響く、スタッカートの足音。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

ふたりのスカートをなびかす風は、いつしか五月の山吹色に香っていた。

(森 絵都「鈍行列車はゆく」  
(問題の都合上本文を一部省略しました。))

- 注1 偵察……相手の様子・動きなどをひそかに探ること  
注2 垢ぬけて……容姿や態度などが洗練されていること  
注3 喧噪……人の声や物音がやかましいこと  
注4 不協和……互いに混じり合ったりとけこんだりしていないこと

問一 —— 線①「言ったとたん、ほおがほてった」とは、

千鶴のどのような気持ちを表していますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア ほっとしている  
イ はずかしがっている  
ウ 腹を立てている  
エ こわがっている

問二 に入る言葉として最もふさわしいものを次の

ア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 手    イ 肩    ウ 足    エ 指

問三 —— 線②「千鶴は胸のときめきが急速にしぼんでいくのを感じた」とありますが、このときの千鶴の様子を

説明したものととして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 予想に反してグラウンドの空気が重々しく感じられ、このようなきびしい練習にはついていけそうにないと思っている様子。  
イ 部員たちが練習中にふざけており、期待していたマネージャーとしての活動ができそうにないと不安を感じている様子。

ウ 三人の女子マネージャーの姿がかがやいているのを見て、自分はこんなふうにはなれないのではないかと気おくれしている様子。

エ 部員たちもマネージャーも団結していて、今から自分はその輪の中に入るとはむずかしいとあきらめている様子。

#### 問四

——線③「この先もずっと、自分はこれまでとおなじレールの上を走りつづけることになる」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 体育系の部活動に入らなければ、新しい自分に生まれ変わることはできないということ。

イ 体育系の部活動に入らなければ、周りの友達との会話についていけなくなるとのこと。

ウ 文化系の部活動に入ること、きれいな運動を無理にやらなくてもよいということ。

エ 文化系の部活動に入ること、これまでの自分の経験をいかすことができるということ。

問五 〜〜〜線 a の言葉の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

a たちまち

ア ゆっくりと  
イ すぐに  
ウ ようやく  
エ だんだん

#### 問六

**B** に入る言葉として最もふさわしいものを、  
**B** より後の本文中から七字で書きぬきなさい。

#### 問七

〜〜〜線 b の言葉の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

b じれったく

ア もどかしく  
イ いつまでも  
ウ とつぜん  
エ しばらく

#### 問八

——線④「千鶴らしいことをしたほうがいいと思う」とありますが、ここではどうすることを指していますか。「〜こと。」に続くように答えなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問九

線⑤「すうっと肩から力がぬけた」のはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 不得意なことを得意になるまでがんばるよりも、今の自分にできることを大切にして、さらに上達させるべきだと理解したから。

イ 自分らしくないことに挑戦するよりも、今までがんばってきたことを途中で投げ出さずに、その先も続けていこうと決心したから。

ウ 未知の世界に一人で飛びこむよりも、自分のことをよく理解してくれる友達と一緒になら、何があっても大丈夫だと安心したから。

エ 無理に新しいことを始めるのではなく、自分らしさの中でがんばることで、新しい自分を見つけることができそうだと思えたから。

問十

線⑥「だいぶ足になじんできた通学路に響く、スタッカートの足音」が表していることとしてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 期待
- イ 活気
- ウ 不安
- エ 軽快

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

I

ものの本質を見ることは、そんなに大事なことなのか、という疑問を持つ人もいらっしゃるかもしれない。本質を見ることは、自身にとって有利である。本質が見えていない場合には、なにかを見せられているだけで、つまり他者に拘束されているような不自由な状態だから、思うように自分をいかせない。自分をいかすとは、簡単にいえば、「自在」に生きることだ。これは、僕の定義では、「自由」と同じ意味である。

言い方を変えると、本質を見ている状態が「自由」である。不自由になっているのは、本質が見えない状態のことだ。知りたいことを知ることができず、やりたいことができない。それが不自由というもの。なにかにとらわれていると、不自由になるけれど、<sup>①</sup>現代における他者からの支配というのは、実にわかりにくく巧妙<sup>こわう</sup>になっている。警戒<sup>けいけい</sup>していて、ちょうど良いくらいだ。

世間の人は、<sup>注2</sup>宣伝<sup>a</sup>におどらされ、大勢の空気に流され、数々のきずなでがなじがらめにしぼられている。自分が望む道を進んできたはずなのに、知らないうちに不自由な思いをしている。つまり、本質が見えなくなっている。誰かの意図<sup>かく</sup>で、隠されているからだ。

## II

そもそも、どうして自分で自分の自由にブレーキをかけるようになったのか。

それは、周囲の目を気にしたからだ。俗<sup>ぞく</sup>にいう、「空気<sup>②</sup>を読んだ」からだ。

人間は、社会を作る動物である。群生<sup>ぐんせい</sup>する動物である。なぜ、集団になるのか。それは、集団の方が有利な点が多々あるからだ。獲物<sup>えもの</sup>を取るのにも、身を守るのにも、集団の方が強力である。一般に、人間をおそってくるような動物は、集団で行動しない。だから、集団で立ち向かえば、有利になる。力を合わせるから、一人よりも強い。

ところが、思考では協力することがむずかしい。知恵<sup>ちえ</sup>を出し合い、議論をする程度しかできない。力は二人いれば二倍になるが、思考力は二人いても、二倍にならないのだ。

集団の場合、決断力はむしろ低下する。一人ならすぐに決断できるけれど、集団ではそうもいかない。また、誰か一人がすばらしい思いつきをしても、周囲の大勢が関心を示さなければ、そのアイデアは無視される。特に、前例のない新しい方向性は、大勢には容易に認められない。数が多いだけで見かけ上、保守的になる。判断はおくれ、集団としては鈍感<sup>どんかん</sup>な行動を取る。

集団になれば、同じ議論を避<sup>さ</sup>けるために、しだいにしきたりができ、前例ができ、一方では人間の序列<sup>じょれつ</sup>ができるから、個人の自由な発想はいかされにくい。集団としてのこだわり

のようなものが形成されてしまうからだ。

## III

自由な発想にブレーキをかける環境<sup>かんきやう</sup>が弱まった、といえる。個人の内でも、自身にブレーキをかけるのは、古来のものを引きずっている価値観だ。みんなにきつと認められない、自分だけがうことはできない、これまでそんなことをした人はいない、ということによってブレーキをかけたがる、そんな古い人間が、まだ個人の中に意識として残っているのではないか。

A、支配され拘束されている状態よりも、自由の方が良いのはどんな点だろうか。実は、これは難しい問題で、なかなか文章にしにくい。まず、B、支配されている状態は、省エネで考えなくて良くて、もし良質な支配であれば、ある程度の安心も得られる。身を任せるような状態といえる。最近の豊かな社会は、みんなが支配されていて、安心とは国からもらうものだ、と考える人がたくさんいるようである。

自由というのは、このような安心がない。自分のことは自分で考えなければならぬから、ちょっとめんどうだ。ただ、唯一<sup>ゆい</sup>ともいえる利点は、「楽しい」ことだろう。これは、自由になってみないとわからない。

なにしろ、支配する側も、「楽しいですよ」とさそって、大勢を拘束しているのだ。手軽に楽しめるものを見せて、その代わり金を取る。たしかに、金を払えば、一時の楽しさは

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

得られる。でも、その金をかせぐために、時間と労力を失い、つかれ果てるほど働かなければならない。一時の楽しさはたちまち消えてしまい、金も消えてしまう。結果として、時間と労力が失われた分、個人の未来は目減りすることになる。

用意された商品としての楽しさとは、たとえば「塗り絵」のようなものだ。指定の色を塗っていけば、整った絵ができあがる。絵を自分で描いた気分が一時的に味わえるかもしれない。でも、作品が完成しても、なにも残らない。それはあなたの作品ではない。

それに比べて、自分で絵を描くことは大変だ。失敗する可能性もある。ただ、作品ができあがったとき、そこにあるのは、まぎれもない世界唯一の作品であり、さらに、あなたは、その絵を描いたことで確実に成長するだろう。次に描く絵は、もっと良いものになるはずである。

現代人は、容易に楽しめるものへと流れがちである。そうしてもらえれば、商売になるので、楽しさを強調して、たくさんのお楽しみセットが売り出されている。そんな支配を受けていることを、ときどき思い出した方が健全である。

言葉は悪いが、金というのは、自由を作る可能性を持っている。これを自分のために使えば、自分が自由になる。できるかぎり、売り出されている楽しさを買わないこと。自由になれば、それとは比べ物にならないほど大きな楽しさを味わうことができる。そして、自分で作り出した楽しさは、あなたが生きている間、消えることがない。

(森 博嗣「なにもものにもこだわらない」)

(問題の都合上本文を一部省略しました。)

- 注1 拘束されて……とらえられて自由を制限されていること  
注2 がんじがらめ……まったく身動きのとれない状態  
注3 目減りする……価値が低くなること

### 問一

線①「現代における他者からの支配」としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ネットの情報で評価が高いものはいいものだと思うこと。  
イ テレビ番組で専門家が言っていることは正しいと思いたい込むこと。  
ウ 自分ではあまり考えず大勢の人が言っていることに流されること。  
エ 自分で望んだ道が正しいと信念をもってつき進むこと。

問二

~~~~線 a・b の表現の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- a 宣伝に  
おどらされる
- ア 多くの宣伝を聞く
  - イ 宣伝にのせられて動く
  - ウ まわりが宣伝であふれている
  - エ 宣伝だけを信用する

- b まぎれもない
- ア 自分だけの
  - イ 気づかれない
  - ウ まちがいなく
  - エ まぎらわしい

問三

~~~~線②「空気を読んだ」ことで「自分の自由にブレイキをかける」ことにつながるのなぜですか。その理由としてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 集団になれば同じ議論を避けるために、しだいにしきたりができるから。
- イ 人間の序列ができ、個人の自由な発想はいかされにくいから。
- ウ 集団としてのこだわりのようなものが形成されてしまうから。
- エ 身分をこえてのし上がれるようになったから。

問四

~~~~線 A・B に当てはまるのに最もふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A
- ア そして
  - イ では
  - ウ しかし
  - エ つまり

- B
- ア 同じことだが
  - イ くり返しにはなるが
  - ウ 逆のことを書く
  - エ 話題をかえると

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問五

I Ⅲ

に当てはまる小見出しとしてふさわしいものをア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由な発想の大切さ
- イ 本質を捉えることの大切さ
- ウ 用意された楽しさに支配される
- エ 新しい思いつきを大切に作る

問六

線③「自分で絵を描くこと」とはどういうことを表現していますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 何にもこだわらないで自由な発想で考え自分で楽しみを作り出すこと。
- イ 集団をこえてのし上がり、自分でかせいだお金を自由に使って楽しむをかうこと。
- ウ すでにある楽しみを自分で選択して生活に取り入れることによって楽しむを得ること。
- エ 集団としての空気に支配されていることを時々思い出しながら健全に生きること。

第四問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

米アウトドアメーカー「パタゴニア」で製品開発を担当するウィットマイヤさんは、工場を訪れて考え込んだ。向こう側の壁が見えないほど広いフロアで機械が24時間稼働している。電源は近くの石炭火力発電所だ。

フリースやシャツに欠かせない化学繊維は、1990年代からペットボトルなどのリサイクル素材を使っている。その分、原料である石油の消費を減らしたつもりだったが、製品に加工する過程で多くの温室効果ガスを排出していた。

同社は環境対策で先進的な姿勢が評価されたことも追い風に、成長を続けた。I、販売数量が伸びればそれだけ資源を使い、ゴミも出る。そうしたジレンマに見て見ぬふりを決め込めば、II「グリーンウォッシュ」とみなされかねない。

大量生産・廃棄はアパレル産業の宿痾である。低価格化で使い捨ての風潮が一段と強まった。国内では毎日、大型トラック130台分の衣服が捨てられる。

環境に詳しい弁護士ら専門家の視点でこうした問題を論じる動画が、パタゴニアのウェブサイトで公開された。冒頭のエピソードも描かれている。タイトルを「クローゼットの中の怪物」という。怪物とはタンスに眠る大量の衣服か、消費社会に生きる私たち自身か。

注3 環境に負荷を与えずには成り立たない日々の暮らしである。

③ そうした自覚と節度を欠けば、いよいよ持続可能ではなくなる。ウィットマイヤさんは言う。「<sup>④</sup>必要のないのに買わないで。そんなにいららないでしょ」

(毎日新聞「余録」二〇二二年六月二十七日掲載)

注1 稼働……機械を動かして仕事をする事

注2 宿痾……長く治らない病気。ここでは、ずっと解決できない

でいる問題という意味

注3 環境(に) 負荷……人の活動が環境に与えるマイナスの影響

問一 —— 線① 「ウィットマイヤさんは、工場を訪れて考

え込んだ」とありますが、ウィットマイヤさんは、製品開発の過程でどのようなことを目指し、それがどのような結果を招いたと考えたのですか。このことが書かれた一文をぬき出し、初めの五字を書きなさい。ただし句読点も字数に含まれます。

問二 [ I ] に入る接続語として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア だが
- イ つまり
- ウ また
- エ あるいは

問三 —— 線② 「ジレンマ」と同じような意味を持つ慣用語として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 立て板に水
- イ 板につく
- ウ まな板にのせる
- エ 板ばさみになる

問四 [ II ] に入る言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア エコを進めて利益を上げる
- イ エコをよそおって利益を上げる
- ウ エコをあきらめ利益を求め
- エ エコを求めて利益をあきらめる

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問五 ———— 線③ 「そうした自覚」とはどのような自覚です

か。次の文の  に合う言葉  
を文章中から十七字で書きぬきなさい。

・私たちの暮らしは  という自覚。  
と

問六 Aさんのクラスでは、——— 線④ 「必要ないのに買わないで。そんなにいらないでしょ」というウイットマイヤさんの言葉に注目して、「私たちにできる環境問題への取り組み」というテーマで発表することにしました。あなたならばどのような発表をしますか。後の「環境省のウェブページにある資料の一部」を用いて、発表原稿けんこうを次の条件にしたがって書きなさい。

【条件】

1 「ある服飾メーカー社員のウイットマイヤさんは、衣服を売る立場でありながら『必要ないのに買わないで。そんなにいらないでしょ』と語っています。」に続けて書くこと。

2 「環境省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。その際、数値を一か所は引用すること。

3 引用する部分は、かぎかっこ（「」）でくくること。

#SUSTAINABLEFASHION

一着を長く着て  
サステナブルファッション



今ある服を今年捨てずにもう1年長く着れば、  
日本全体で約4万tの廃棄削減につながります。

環境省  
Ministry of the Environment

#SUSTAINABLEFASHION

買わないことも  
サステナブルファッション



2019年に約35億着の衣服が供給されました。  
買わないだけでも  
大量生産を見直すアクションとなります。

環境省  
Ministry of the Environment

#SUSTAINABLEFASHION

1年間1回も着られていない服が  
一人あたり25枚もあります。



循環型ファッションの推進には  
家庭にしまい込まれている  
服の活用が課題です。

環境省  
Ministry of the Environment

#SUSTAINABLEFASHION

私たちの4人に1人は  
「安く買い、流行のシーズンが終わったら処分する  
サイクルを見直したい」と感じています。



もし衣服の供給量を25%減らすことができれば  
約20万トン分の服を作らずに済みます。  
これは東京タワー約50棟分の重さに相当します。

環境省  
Ministry of the Environment

[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/index.htm](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/index.htm)  
環境省—サステナブルファッション (env.go.jp)

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

